



第26回風花随筆文学賞
ふくいの伝統行事「風祈能」
文化講演会、地域の文化活動

『西田梅の発祥地 —伊良積の歴史—』の刊行



西田梅の発祥地
—伊良積の歴史—

伊良積誌編さん委員会（田辺常博代表）は、（公財）げんでんふれあい福井財団の助成を受けて、伊良積区（若狭町田井）の歴史を取りまとめた「西田梅の発祥地—伊良積の歴史—」を令和5年3月に刊行しました。本書は、集落で日本の原風景「ふるさと」がくずれ、少子化で人口が減少して、高齢化が進み、明治百年が遠くなる一方で、大正・昭和百年が近くなり、平成、令和が過ぎていく中で、生活様式や農業経営などが大きく変貌し、お祭りなどの伝統芸能の継承が年々厳しい環境下となった中、数年前から区民有志から、「伊良積の歴史の冊子を製作



現在の伊良積 北庄集落 撮影（令和5年）



昔の伊良積 撮影（昭和31年）

し後世に残していこう」との声が上がり、地区の理解を得て発刊したものです。区民を初め、区外の学識者からも寄稿を得て、編さん委員の6年にわたる執筆、整理、校正を経て、刊行されました。本書は69ページで、地区の歴史から始まり、神社、寺院等、集落内の年中行事、梅栽培などの生業、自然災害、文化財、戦争の記録など、14章に分けて地区の全体像が描かれており、最後に、人口の変遷、梅の生産高等の資料が収録されています。本書は、伊良積区全体の歴史を書きとどめた貴重なものとなりました。今回の本書の刊行は、西田梅の発祥の地の伊良積地区の歴史を後世に伝える大切な資料となるでしょう。

表紙の説明『若狭町・美浜町の風祈能』

古来、農民にとって稲作の収穫前の風水害ほど忌むべき災害はありません。農作物を風水害から守るための神仏への多様な祈願や祭礼が、全国各地で行われてきました。二百十日前後の風祭りや風祈禱、風日待ち、風防ぎなどの風除けのまじないが行われ、若狭一帯でも「二百十日の前掛け」があります。宇波西神社と弥美神社で毎年行われる神事能の「風祈能」も、中世以来の格式を伝える若狭能倉座によって古式ゆかしく奉納されます。



（写真撮影：吉田俊雄氏）

目次 54

- スポット『伊良積の歴史』…………… 2
- 第26回風花随筆文学賞…………… 3～5
- ふくい伝統行事「風祈能」…………… 6～7
- 文化講演会…………… 8～9
- 地域の文化活動…………… 10
- 情報ファイル…………… 11

財団シンボルマーク



公益財団法人「げんでんふれあい福井財団」は、福井県の文化振興とふれあいとゆりのある地域づくりに寄与することを目的に、県民のみならずとの絆を大切に広報誌を目指します。

第26回 風花随筆文学賞

かざはな

「風花随筆文学賞」(同賞実行委員会主催、げんでんふれあい福井財団特別協賛)の授賞式が、3月5日に福井県立図書館多目的ホールで行われました。この文学賞は、福井県出身の芥川賞作家津村節子さんの随筆「風花の街から」にちなんで平成9年度に創設された賞で、毎年国内外から多くの作品が寄せられています。当財団では、文化・芸術を愛する県民風土を高める顕彰事業として、特別協賛し、「げんでんふれあい福井財団賞」を贈呈しています。今回は、一般の部で紺野天地さんと高校生の部で高山咲輝さんの二人が、「げんでんふれあい福井財団賞」を受賞されました。

第27回風花随筆文学賞 作品募集

- 内 容 随筆(人とのふれあい、家族や旅の思い出、ふるさとへの思い、世の中の動きについて考えたことなど)
- 応募資格 高校生以上(一般の部と高校生の部があります)
- 応募規定 ・400字詰原稿用紙3~5枚
・作品は日本語で書かれた自作、未発表のもの
- 締 切 <一般の部>令和5年10月31日(火)当日消印有効
<高校生の部>令和5年12月15日(金)当日消印有効
- 応 募 先 風花随筆文学賞実行委員会事務局
(福井県ふるさと文学館内)
TEL: 0776-33-8866
E-mail: kazahana@pref.fukui.lg.jp
詳しくはHPをご覧ください。
URL: <https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/>

一般の部(応募作品1320編)

- ▽《最優秀賞》梅田純子(新潟県)「玉手箱」
- ▽《優秀賞》げんでんふれあい福井財団賞《紺野天地(埼玉県)「拍動」
- ▽《優秀賞》福井新聞社賞《渡辺恵子(徳島県)「母に伝えたかったこと」
- ▽《優秀賞》福井「愛学園賞」菊地ヒロセ(兵庫県)「Bじいちゃんに教えられたこと」
- ▽《優秀賞・U30賞》赤松恵(和歌山県)「天国からの贈り物」
- ▽《優秀賞・実行委員会賞》井島克也(大阪府)「親父とトンテキ」

高校生の部(応募作品2069編)

- ▽《最優秀賞》中根詩彩(福井県)「二本のつまい棒」
- ▽《優秀賞》げんでんふれあい福井財団賞《高山咲輝(福井県)「出てくられてありがと」
- ▽《優秀賞》福井新聞社賞《熊谷孝太(宮城県)「微熱を感じて」
- ▽《優秀賞・福井仁愛学園賞》西陽向(福井県)「幸せな日常」
- ▽《優秀賞・実行委員会賞》谷口小優子(福井県)「私の武器」
- ▽《優秀賞・実行委員会賞》竹中ひかる(北海道)「メモ用紙の折り鶴」
- ▽《佳作》松田珠希(福井県)「祖父と池田」
- ▽《佳作》牧野美南(福井県)「人生レシピ」
- ▽《佳作》平瀬咲弥(福井県)「にっこりがし」
- ▽《佳作》藤沢茉莉(福井県)「お弁当」

▽《奨励賞》

- 中屋咲希、大石誉人、高石悠人、東守海、坪内伽沙音、石蔵柊、松浦晃大、八尾凜咲、山口美々、村田莉南、中村莉奈、林田いろは、古川愛奈、酒井春音、森陽菜、石本悠夏(福井県)
- 松永奈々(北海道)
- 楠見円(東京都)
- 相田菜々(静岡県)
- 川口隼汰(山口県)

※入賞作品は、「風花随筆文学賞」ホームページ(福井県ふるさと文学館ホームページ内)に掲載されています。また、作品集をご希望の方は、実行委員会事務局(福井県ふるさと文学館内(☎0776-33-8866))までお問い合わせ下さい。



(受賞者等の集合写真) 県立図書館多目的ホール
杉本達治福井県知事、受賞者、審査委員、実行委員、来賓の皆さん

一般の部

優秀賞・げんでんふれあい福井財団賞
「拍動」



紺野 天地さん
(埼玉県)

結婚が決まり、都内で両家の顔合わせをした翌日、父に会った。僕の両親は山形県に住んでいて、母は夜のうちに老犬の待つ家へ戻ったが、父は滞在を一日延ばしていた。

午後三時、梅雨晴れの石神井公園は人もまばらで、三宝寺池のベンチに並んで腰掛けると、父が懐かしそうに辺りを見回した。

「変わんなあ、ここは」

東京で山形の訛りを聞くのは、なんだか新鮮だった。父と母は東京で出会い、結婚して石神井で暮らした。ここで、長男の僕と妹が生まれ、父の郷里である山形へ引越したのは僕が五歳のとき。弟の出生地は山形になる。

「お母さん、ちゃんと最終に乗れた？」

「うん。いいご両親でよかったって、嬉しそうにしてたっけよ」

顔合わせは終始、和やかだった。

父はしばらく昨日のことを話し、バッグから茶封筒を取り出した。中には入籍の手続きに必要な戸籍謄本が入っているはずだ。昨日受け取る予定だったが、ゆっくり話したいからと父が今日に延ばし、石神井公園で待ち合わせしたのだった。

「それと、これ」

父が茶封筒を逆さにして、ビニールカバーのかかった小ぶりの冊子を取り

出した。表紙の可愛い絵柄には見覚えがある。僕が生まれたときの母子手帳だ。

「お母さんが、続きを話して来いって。大体のことは、聞いたんだべ？」

うなずく僕の横で、父が母子手帳を広げた。

昨年暮れのことだ。

帰省すると、例年より多い雪で仕事ができ込んだ父は忙しくしていて、母の大掃除を僕が手伝うことになった。

古い和ダンスの小引き出しに入っていた母子手帳を見つけたのは母だった。見るかと聞かれて受け取ると、けっこうな厚みがあり、中に病院の検査結果や名刺大のコピー紙が挟んであった。僕を妊娠したとき、母が大病を患っていたのは聞いたことがあるが、大雑把な内容しか覚えていない。そのまま母に伝えると、当時の話をしてくれた。

発病したのは僕を妊娠する三年ほど前。全身性エリテマトーデスという自己免疫性疾患で、一年近く悩まされたという。当時、公務員だった母は二年後に新任地へ転勤し、そこで仕事に追われるうち、体調を崩した。再発を疑って行った大病院で、妊娠していることを知ったそうだ。三十年前は治療も限られていて、母の場合は妊娠の経過とともに病気が重症化する恐れ

があった。評判のいい病院を転々として出産にこぎつけたという。

妹や弟を妊娠したときは症状がほとんど出なかったため、僕を生んで丈夫になったんだろうと母は笑って、掃除の続きを始めた。

僕は名刺大のコピー紙をながめた。扇型の砂嵐のようなモノクロ画像は妊娠初期のものだと母は言ったが、裏に個人病院らしき名称が書いてある。大きな病院を渡り歩いたと、さっき聞いたばかりだったので、小さな違和感がわいた。あとで訊ねてみようと思いついた。中にも、手帳だけをダンスに戻した。だが、年末の慌ただしさの中、聞かず仕舞いだった。

僕が財布からそれを取り出すと、父は驚いた顔をした。

「そのうち返そうと思って、入れっぱなしだったんだ。この産婦人科、個人病院だよな」

本当は、春に帰省したときダンスに戻すつもりでいた。しかし、挨拶を兼ねて一緒に行った彼女が、初めて会う僕の両親と楽しそうに話しているのを見ていたら、胸のあたりが熱くなり、すっかり忘れてしまっていた。

「最初に大病院で診察して、その一週間くらいあとな」

大病院の医師には、出産が難しい

ことを説かれたという。個人病院の受付で渡された問診票に、出産を希望するか否かの設問があったが、母はどちらにもマルをつけなかった。

両親は、出産を迷っていたのかもしれない。

「お母さんが診察室に入ってしばらくして、看護婦さんに呼ばれて俺も中に入ったんだっけ。お腹にエコーを当てる段になって、お母さんが呼んでほしいと言ったんだ。昔のテレビみたいなモニターがあつてな、そこにお腹の中が映る。白黒の画面で何が映ってるか分かんねかったけど、一か所だけ、パカパカ点滅してた。先生がそこを指してな、これが心臓ですよ。赤ちゃん元気に動いてますって言ったんだ。そのときの画像が、これ」

僕はコピー紙を父に渡した。

「お母さん、あの瞬間、お前の声が聞こえた気がしたって言ってた。自分はこのにいる、自分は生まれたいんだって」

父はコピー紙を母子手帳に挟んで、バッグに戻した。ぽつりぽつりと二人で話しながら、三宝寺池から氷川神社へあがった。参道を下ってすぐのところにも両親と暮らしたマンションがある。神社で両手を合わせた父は、僕が顔をあげてもまだ、じっと頭をさげている。

高校生の部

優秀賞・げんでんふれあい福井財団賞
「出会ってくれてありがとう」



高山 咲輝さん
(福井県立三国高等学校)

「他の人と考え方が違うところ」

この言葉で私の人生は変わった。

友達を作ることが苦手。理由は自己

肯定感が低いから。幼い頃から、

「変わってるね」

と言われることが多かった。言っ

ている方からすれば何気ない一言かもし

れないが、私はこの言葉で深く傷つく。

他人と違うことはダメなことなんだ。

他人と違うことをしてしまう私はダメ

な人間なんだ。私という存在を否定さ

れている気がする。他人の目ばかりが

気になる。嫌われるのが怖い。そんな

ことを思いながら生活する日々。話し

かけてくれる子はたくさんいる。でも、

こんな私と話していて相手は本当に楽

しいのかな。後から嫌われるくらいに

ら仲良くならないほうがまだ。そん

なことばかり考えてしまう。結局、仲

良くしようとしてくれる子とも深い関

係にはなれずに終わる。こんな自分に

嫌気がさし、毎晩泣く。

そんな私も気づけば高校生になって
いた。憧れのJK生活。今までの自分を
変えようと、積極的にみんなに話しか
けてみる。しかし、なかなか上手くい

かないのが現実。

「やっぱり私なんか……」

と思い落ち込む日々。それでも、高

校では嫌われないようにしようと、必

死で普通の人を演じる。周りから浮か

ないように周りに合わせる。そればか

りを意識して生活した。

そんなある日の休み時間。机に肘を

つき、窓の外を眺めていた。すると、

いきなりハイチューが一粒、私の目の

前に飛んできた。ハイチューが来た方

向を確認すると、隣の席のあなたが私

を見ていた。

「それ欲しそうにしてたからあげる」

「え、あ、ありがとう」

これが私とあなたとの初めての会話。

別に欲しそうにしていたつもりはない。

でも、なんだか心が温かくなる。その

日から少しずつあなたと話すように

なった。そして、私とあなたが仲良く

なるのに、その時間はかからなかった。

あなたは話すが上手で、たくさん私

を笑わせてくれる。私と話すが楽し

いと言ってくれる。私は、なぜかあな

たの前でだけは素の自分が出せた。

しかし、あなたと別れて家に帰る

と、急に不安が襲ってくる。私と話し

ていてあなたは本当に楽しいのだろう

か。私の素をあなたは気持ちわるいと

思ってるんじゃないか。あなたは本当

は私のことが嫌いなんじゃないか。こ

れからあなたに嫌われたらどうしよう

毎日毎日こんなことを考えて泣いてし

まう。これをあなたに伝えたら嫌われ

てしまうかもしれない。そうして私は、

あなたと距離を置こうとした。嫌われ

てしまう前に。

しかし、あなたにはばれていたらし

い。

「最近元気ないけど何かあった？」

あなたからの一言。私の目から一粒

の涙がこぼれ落ちた。その瞬間、我慢

していた涙たちが次々とあふれた。怖

かった。本当のことを言ったらあなた

は私を嫌いになるかもしれない。私は

さらに泣いた。

「どうしたの？ ゆっくりでいいから

話せるようになったら話聞かせて」

あなたの優しい声。あなたなら信じ

てみていいのかな。話してみようか

な。でも嫌われたらどうしよう。そん

な葛藤が一時間ほど続いた。その間、

あなたは何も言わずただ背中をさすっ

てくれていた。優しい目で私を見つめ

て待っていてくれた。あなたを信じて

みよう。上がっている息をなんとか整

え、あなたに聞いた。

「なんで私と仲良くしてくれるの？私

のどが気に入ってくれたの？」

あなたは一瞬戸惑っているようにも

見えたが、優しい声で答えてくれた。

「他の人と考え方が違うところ。話し

てると毎回新しい考え方に会えて、

面白いし素敵だなんて思ってる」

意味が分からなかった。私はこの言

葉を理解するまでにとても時間がか

かった。他人と違うことを私の長所だ

と褒めてくれた。他人と違うことは素

敵なこと。私は初めて、私という存在

を肯定してくれる人に出会えた気がし

た。私はこの日、少しだけ自分を好き

になれた。

あなたの一言で私の世界は明るく

なった。私と出会ってくれてありがと

う。

ふくいの
伝統行事

福井県指定無形民俗文化財・国選択無形民俗文化財

若狭能倉座の神事能「風祈能」

若狭町
美浜町

風鎮めの祈願能

まさしく呼んで字の如し。二百十日を前にして、豊作を祈り暴風雨を鎮めるための神事能を若狭では「風祈能」と呼び、現在、若狭能倉座によって、若狭町の宇波西神社では毎年8月19日に、美浜町の弥美神社では同20日に厳かに奉納されています。

かつては、若狭には、倉座のほかに、最盛期には尾古・吉兆・気山（毛山）の四座があり、南北朝時代以降各地で神事能の奉納が行われていました。現在も、旧若狭藩内ばかりではなく、支配地の敦賀市白木や立石、滋賀県湖西地方の朽木や高島でも、歳時の折々に古式ゆかしく主に能舞台や拜殿で舞われています。

若狭能倉座の始まり

これらの若狭猿楽は、幾多の変遷のうち、近世初頭には、守護の武田氏や、その後の藩主の酒井氏の熱い保護を受けていた倉座に収束し、大和猿楽を源流とする芸系とは異なる、全国的にも貴重な能楽が今に伝えられています。

若狭能倉座の歴史は古く、高橋照文家文書や永正二年（1506）の「当地之由来写替ノ覚」（別家 青氏平助

所持）によれば、鎌倉時代の建仁四年（1205）にまでさかのぼります。青葉山麓を治めていた青小太郎義尹の嫡男国英の難産の折、土蔵の上にたくさんの鴉が鳴き騒いでいるのを、青海翁の面を発見し、この吉兆により平産し、毎年5月3日に国英の誕生を祝して能が奉納されたとあります（若狭能倉座の神事能調査委員会による）。

風祈能の上演

さて、先述の通り、現在風祈能の奉納は、例年の8月19日に宇波西神社、翌日の20日に弥美神社でそれぞれ午前中に、福井県指定無形民俗文化財・国選択無形民俗文化財の「若狭能倉座の神事能」が奉納されます。伝承されている演目として、羽衣・山姥・杜若・紅葉狩・松風・岩船・狸々・右近・玉鬘・吉野天人があり、風祈能の上演に際しては、必ず「一人翁」が太夫と面箱持ちの2人で厳かに演じられ、現在は囃子もありません。

太夫は神社へ参上する前に、自宅で必ず精進潔斎の水垢離をし、長床に着くと厳粛な面持ちで着替えをいたします。まず筵を敷き、三方の上に面箱と翁面、別の三方には神饌の塩とお洗米、お神酒を供え、太夫と面箱持ちが本殿

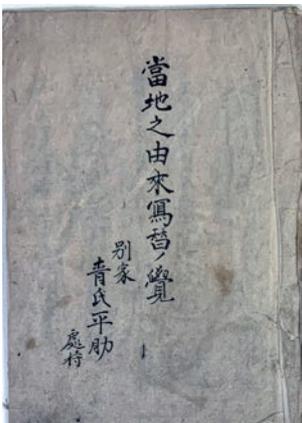
に向かつて一献お神酒とお洗米をいただき拝礼。「お面祭り」と呼ばれる簡素な神事の後、いよいよ、能舞台で風祈能が奉納されます。

まず神聖な舞台上に面箱持ちに続いて翁が登場。神前に向けて一礼をし、着座をして、翁が直面で「とうとうたらりたらりら、たらりあがりらりら」と謡い出します。面箱持ちが地謡の「ちりやたらりたらりら…たらりあがりらりら」と受け継ぎ、翁が「ところ千代までおはしませ」、面箱持ちが「我らも千秋さむらほう」と掛け合い、白色尉の翁の面を付けて、翁をひと舞し、「万歳楽」を謡い、面を外して拝礼。厳かな「風祈能」の一幕を終えます。（大略）

今年も、新型コロナウイルス以前の通り、一人翁の奉納後、仕舞や舞囃子、素謡、伝承演目の祈願能の奉納が行われました。

（日本地名研究所

所長 金田久璋）



当地之由来写替ノ覚
(高浜町青海神社所蔵
多仁照廣氏撮影)



能舞台 弥美神社



弥美神社



宇波西神社



「風祈能」宇波西神社



「風祈能」に使用する能面



「お面祭」宇波西神社



仕舞「吉野天人」宇波西神社



「風祈能」弥美神社



「風祈能」宇波西神社

(写真撮影：吉田俊雄氏。「当地之由来写替ノ覚」を除く。)

文化講演会 (当財団との共催)

当財団では、県内各地域において関係団体と共催で文化講演会を開催しています。

敦賀市女性の会 文化講演会

「もうムダにしない！食品ロスが減らせる冷蔵庫の使い方&食品保存」

講師 島本美由紀 氏

(料理研究家、食品ロス削減アドバイザー、防災士)

令和5年4月29日(土・祝) 敦賀市東郷公民館において、敦賀市女性の会(旧敦賀市連合婦人会)と共催で文化講演会を開催しました。講師は、50か国、200回を超える海外旅行を経験され、旅先で得たさまざまな感覚を料理や家事のアイデアに活かし、手軽に作れるおいしい料理レシピを考案するとともに、家事全般のラク(楽しくカンタン)を追求する「ラク家事アドバイザー」、エコの観点から食品保存や冷蔵庫収納を提案する「食品ロス削減アドバイザー」、「冷蔵庫収納&食品保



講師：島本美由紀 氏



島本氏の講演に聴き入る参加者

存アドバイザー」としても活動されている島本美由紀氏で、「もうムダにしない！食品ロスが減らせる冷蔵庫の使い方&食品保存」と題して講演いただき、同会会員ら46名が参加しました。講演会では、主婦の身近な問題である食品ロスの削減法について、環境問題やエネルギー問題なども絡めてお話しいただきました。すぐにでも取り組めるアイデアも含めた大変興味深いお話に、参加者は、大いに関心を持って熱心に聞きっていました。質疑応答も講演終了時間いっぱいまで行われ、この問題に対する参加者の関心の強さがうかがわれ、大変充実した講演会となりました。

福井県連合婦人会 文化講演会 & 会員のつどい

「モチベーションアップで元気に！」

講師 千葉すず 氏

(元水泳オリンピック選手)

令和5年7月9日(日) 県生活学習館において、福井県連合婦人会と共催で文化講演会を開催しました。講師は、元水泳オリンピック選手の千葉すず氏で、「モチベーションアップで元気に！」と題して講演いただき、県内各地から会員ら約250人が参加しました。

講師の千葉氏は、仙台市出身で、ぜんそくで体が弱かったことをきっかけに5歳で水泳を始め、中学生でオリンピックを目指して、13歳で、自ら大阪の強豪スイミングスクールへ単身水泳留学されました。平成3年の世界選手権では銅メダルを獲得されましたが、これは、世界的に選手層が厚い自由形で、オリンピック・世界選手権を通じて



福井県連合婦人会
田村会長挨拶

て日本女子初のメダル獲得の快挙でした。また、翌年のバルセロナオリンピックでは自由形6位と、自由形女子では日本人最高位の成績を残されました。4年後のアトランタオリンピックにも出場され、キャプテンも務められました。

現在は、キッズインストラクターとして活躍されるかたわら、障がい者と健常者が一緒に泳ぐ水泳イベントを開催したりと、多忙な日々を送られています。

モチベーションアップについては、「方法は人それぞれ。私自身は、アメリカで9・11を経験し、3・11では、夫の実家が被災し、友人の家族を亡くしたりといった経験を通じて、『生きていることが奇跡、その生きている貴重な時間を、落ち込んだり、苦しんだりに使ったことがもったいない』と考えることでモチベーションが下がったことがない」とお話をされました。講演終了後は、時間いっぱいまで活発な質疑応答をいただくなど、来場者は千葉氏から沢山の元気をいただきました。



講師：千葉すず 氏

ふくいきらめきフェスティバル2023 「あなたらしく自分らしくともに輝こう〜未来を変える学びの場〜」

公益財団法人ふくい女性財団は、41の賛助団体で実行委員会を組織し、県が「男女共同参画推進月間」と定める6月に、毎年「ふくいきらめきフェスティバル」を開催しています。公益財団法人げんでんふれあい福井財団との共催で、今年度は、6月24日に福井県生活学習館（ユニー・アイふくい）にて開催しました。

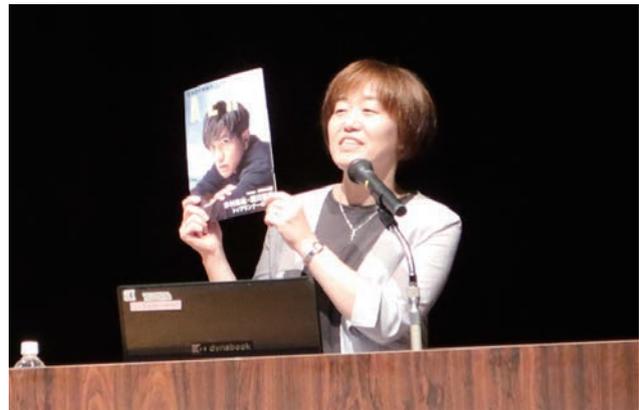
フェスティバルは、福井大学および福井県立大学のアカペラサークル合同の、パワフルで若さ溢れるアカペラ演奏で始まりました。

式典では、男女共同参画社会づくり功労者知事表彰が行われ、4名と2団体の長年の功績が讃えられた後、櫻本宏副知事（当時）と西本正俊県議会議長からご祝辞をいただきました。

メイン企画の「記念講演」では、本県出身の株式会社朝日出版AERA編集長の木村恵子氏にご講演をいただきました。



田村実行委員長 挨拶 櫻本副知事（当時）挨拶



記念講演 講師 木村恵子氏

「『自分らしく』を楽しく！」と題した講演では、自分らしくいるために、仕事や家庭で木村氏が大切にしていることを取り上げ、働く中で実感した社会や男性の意識の変化、女性が仕事や生き方を自分らしく選択するためのポイントを紹介いただきました。木村氏は、「福井は、地域でのつながりが深く、周りに頼れる環境がもの凄くある。自分らしく働くために、それらを活かして、上の世代も下の世代の働き方を後押ししてほしい。また、組織も、みんなが自分らしく働きやすい環境づくりを後押しすることは、面白い成果を生むことに繋がる。そのために多様性のあるマネジメントへと広げてみては」と来場者に投げかけられました。

フェスティバルでは、その後、10企業の講座やワークショップ等を開催しました。座談会「仕事も子育ても『なんとかなる！』まずは飛び込んでみよう」では、記念講演講師の木村氏と参加者で、講演の内容を踏まえながら、参加者と仕事と家庭の両立についてより深く対話しました。

「災害時に困らないために 女性視点の防災講座」では、避難所の運営を考えるワークもあり、災害を想定しながら、異なる世代間で話し合いました。「近年、災害が多く、いつ自分の身にも起こるかもしれないので、今回の講座を少しでも活かしたい」との感想も聞かれました。そのほか、マインドフルネス・ヨガ、親子科学実験ショー、押し花で作るジェルキャンドルづくりなどの体験講座や映画上映、ふくい女性財団や賛助団体の日頃の活動を紹介するパネルの展示も行いました。

今年のフェスティバルには、延べ73人の皆さまにご参加いただきました。男女共同参画・女性活躍の取組みがさらに加速され、誰もが個性と能力を発揮し、自分らしく輝ける地域・豊かな社会の実現へと繋がっていくことを期待しています。



災害時に困らないために 女性視点の防災講座（体験講座）



仕事も子育ても「なんとかなる！」まずは飛び込んでみよう（座談会）

地域の文化活動

「財団助成事業・協賛事業の紹介」
当財団では毎年、県内の文化団体等の事業活動に
助成・協賛を行っています。

三國祭山車制作巡行

— 令和5年5月19日～21日 —

北陸三大祭の一つであり、平成18年に県の無形民俗文化財に指定された坂井市の三國祭が、令和5年5月19日（金）～21日（日）に開催されました。三國祭は、江戸時代、三國湊が隆盛するとともに賑やかとなり、宝暦年間（1751～1764）に山車が曳かれ始め、安永（1772～1781）ごろには、今のような武者人形を載せるようになったといわれています。

今年も、新型コロナウイルスの影響で中止していた舟神輿の渡御を4年ぶりに再開し、完全な形での祭りの開催となりました。中日の20日には、当財団の助成を受けて三國祭保存振興会が制作した山車「釣鐘弁慶」を含めた計6基の山車が、神輿とともに三國町旧市街地を練り歩きました。

新型コロナウイルス禍が続いていた三國祭でしたが、今年は大勢の観客が訪れ、街は、毎日、夜まで熱気に包まれていました。



釣鐘弁慶

NPO法人ふくい子どものための 音楽教室10周年記念コンサート

— 令和5年6月25日 —

NPO法人ふくい子どものための音楽教室ファミリーコンサート及びピアノとバイオリンのジョイントコンサートが、令和5年6月25日（日）福井市のハーモニーホールふくい小ホールで開催されました。このコンサートは、仁愛女子短期大学の音楽教室を引き継いで平成24年に設立された同法人が設立10周年を記念して開催したものです。

午前の部の第一部では、親子で楽しむわらべうたやコーラスステージが披露されました。第二部では、組曲「動物の謝肉祭」が演奏されるとともに、フルートやバイオリン、シロフォン・チェレスタなどの楽器の解説もありました。

夜の部では、大谷研人さんのピアノと篠原悠那さんのバイオリンによる演奏で、ブラームスのバイオリン・ソナタなど、計9曲が演奏されました。

音楽を「聴く」だけでなく、楽しんで観て体験したり、身近な演奏者の一流の音楽に触れた午前の部約400人、夜の部約360人の幅広い年齢層の来場者たちは、楽しく充実した一日を過ごしていました。



大谷さんと篠原さんの共演

男声合唱団 ダンネリオン演奏会2023

— 令和5年6月25日 —

男声合唱団ダンネリオン演奏会2023が、令和5年6月25日（日）福井市のアオッサ県民ホールで開催されました。この演奏会は、平成8年に結成された男声合唱団ダンネリオンが、合唱音楽の楽しさ、すばらしさを県民と共有し、福井県の文化振興、特に合唱音楽の発展に寄与することを目的に開催したものです。

コロナ禍の影響で2年4か月ぶりに開催された今回の演奏会では、マスクを外して、合唱組曲「雨」、「糸」、「見上げてごらん夜の星を」などのポピュラー曲や「グレゴリオ聖歌」などの宗教曲、「朧月夜」などの日本の抒情歌の4部構成で計19曲が披露されました。時折、ソロを交えるなど変化に富んだ、力強く、伸びのある男声合唱に来場した約360人の聴衆はじつと聴き入っていました。



ステージⅡ ～糸～

写真コンテスト作品募集

2023 写真コンテスト

第17回

げんでんふるさと大賞

作品募集

出品無料

テーマ 四季折々「シン・ふくい」

- 部門 学生部門（高校生以上）、一般部門の2部門
- 資格 ① 福井県に在住又は学校・勤務先が福井県内であること。
② 写真の専門家（プロカメラマン）ではないこと。
※中学生以下の方及び当コンテストの関係者はご応募いただけません。
- 作品 応募点数は制限しません。但し、応募者本人が県内で2022年～2023年（令和4年以降）に撮影したもので、自作の未発表作品に限ります。
- 作品の規格 カラー・モノクロで四ツ切又は四ツ切ワイドの単写真のみとします。（デジタルプリントも同様）
- 締切 令和5年10月6日（金）当日消印有効（郵送の場合）
- 発表 令和5年11月6日（月）
- 賞金等 ふるさと大賞1点（20万円）、ふるさと賞3点（学生5万円、一般10万円）、優秀賞5点（学生3万円、一般5万円）、協賛社賞3点（記念品）、入選30点（記念品）
- 審査員 審査委員長：水谷内健次氏（写真家）他7名
- 応募先 ①（公財）げんでんふれあい福井財団（〒914-0051 敦賀市本町2-9-16）
② 福井県カメラ商組合店及び県内フジカラー取扱店
- 応募方法 所定の申込用紙（上記①②にあります。コピー可）に必要事項を記入し、作品の裏に貼って、上記①②いずれかに提出して下さい。
- 表彰式 令和5年11月19日（日）げんでんふれあいギャラリー（敦賀市本町2-9-16）
- 主催・お問合せ先 （公財）げんでんふれあい福井財団 TEL：（0770）21-0291

『当財団助成事業の運用の一部変更』

当財団では、地域文化の振興をはじめ、ふれあいとゆとりのある地域活動を支援するため、福井県内の各種文化団体等の事業を助成しています。

来春の北陸新幹線敦賀延伸開業を機に、貴重な観光資源である沿線各地の有形無形文化財や伝承行事・文化活動の支援を通じ、地域の振興や活性化に寄与するため、このたび、助成制度の運用を一部変更しました。

1. 変更内容（傍線部）

① 北陸新幹線敦賀延伸開業に伴う地域活性化や誘客増大などのための事業

助成率は必要経費の1/2以内、限度額は「応募要領」別表の記載額に1.5を乗じた金額とします。（令和5年度から8年度の実施事業に限ります。）

応募要領は、当財団のHPをご覧ください。



財団HP

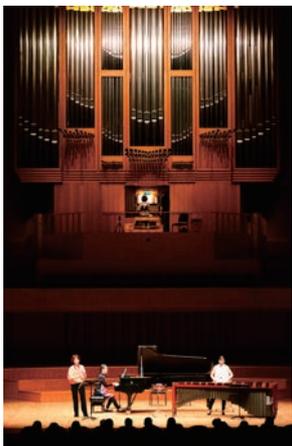
② 助成回数緩和
同一団体の同一事業については、過去10年間で3回を限度とします。

2. 適用日

令和5年7月1日

今年度の助成事業の公募受付は、本年2月15日で締め切っていますが、今年度中に実施する右記①に該当する文化事業については、随時、受け付けます。

ハーモニーぴくにくく ー令和5年7月2日ー



4人の演奏者による演奏

（公財）福井県文化振興事業団が主催する「ハーモニーぴくにくく～こんにちは、あなたはだあれ？～」が、令和5年7月2日（日）に福井市のハーモニーホールふくい大ホールで開催されました。このコンサートは、0歳児からクラシック音楽に親しんでもらおうと平成23年から開催されているものです。福井のアーティストたちを中心としたピアノ、パイプオルガン、クラリネット、マリンバ、パーカッションの演奏で、親しみやすいクラシック音楽10曲が会場に響き渡りました。午前・午後の公演あわせて約600人の来場者は小さなお子さん連れがほとんどでしたが、1曲ごとの演奏前の解説がわかりやすく、短い時間でしたが、集まった家族は楽しいひとときを過ごしていました。

《プログラム》

- ・トランペット・ヴォランタリー クラーク
- ・子犬のワルツ ショパン
- ・アヴェ・マリア シューベルト
- ・誰も寝てはならぬ ブッチーニ
- ・トリッチ・トラッチ・ポルカ J.シュトラウスII
- ・ウェストミンスターの鐘 ヴィエルヌ
- ・アメリカン・パトロール ミーチャム
- ・組曲「惑星」から「木星」 ホルスト
- ・ボレロ ラヴェル
- ・天国と地獄 オフエンバック

げんでんふれあい福井財団助成事業・協賛事業のお知らせ

9月以降に開催され、一般の方も参加（鑑賞）できる事業の主なものをご紹介します。

期日等は変更されることがありますので、事前にご確認下さい。各事業に関するお問合せは、財団事務局（0770-21-0291）まで。

事業名	場所	期日
北陸新幹線福井開業「おもてなしのわ!」PJ 半年前イベント in FUKUI	福井市パピテラス、ハピリンホール	令和5年 9月17日(日)、18日(月・祝)
第32回福井県市町文協選抜芸能祭	南越前文化会館	令和5年 9月24日(日)
こもれ陽の会第22回ヴォーカルコンサート	福井市ハーモニーホールふくい	令和5年 10月1日(日)
男声合唱団ゴールデンエイジふくい ゴールデンコンサート2023	福井市ハーモニーホールふくい	令和5年 10月8日(日)
うちの婆っちゃん一座公演	越前市たけふ菊人形会場内	令和5年 10月22日(日)
福井国際フェスティバル2023	福井県国際交流会館	令和5年 10月22日(日)
REINAN 国際交流のつどい2023	敦賀市プラザ萬象	令和5年 10月29日(日)
越前おおのめいりんオペラ塾 第20回トレモロコンサート 「1つのオペラと1つのオペレッタ」	大野市学びの里めいりん	令和5年 10月29日(日)
若狭合唱協会第30回合唱祭	高浜町文化会館	令和5年 11月19日(日)
第19回まるおか子供歌舞伎	坂井市磯部小学校	令和5年 11月25日(土)
天空の城の下 唄え・踊れ・大野人公演	大野市学びの里めいりん	令和5年 12月3日(日)
第21回たけのっ子劇場ミュージカル公演	越前市文化センター	令和5年 12月10日(日)
歌声でつなぐXmas" パイプオルガンと第九を歌おう"	福井市ハーモニーホールふくい	令和5年 12月24日(日)
国指定無形民俗文化財 「敦賀西町の綱引き」	敦賀市相生町(西町)	令和6年 1月21日(日)
越のルビーアーティストバンク登録オーディション	福井市ハーモニーホールふくい	令和6年 1月28日(日)
Tomorrow, 明日はしあわせ ～ミュージカルアニーより	若狭町パレア若狭	令和6年 3月2日(土)
次世代音楽家応援コンサート	敦賀市民文化センター	令和6年 3月17日(日)

げんでんふれあい福井財団イベント INFORMATION

イベント名	内容	期日	場所	主催、入場料
げんでんふれあい コンサート 2023 旅する音楽♪	<構成・出演者> 第1部:ここはどこ?日本じゃない! 第2部:遊びに来たよ、夢の場所へ 内田彩菜美(フルート) 川崎美砂子(ソプラノ) 高橋かほる(ピアノ) 南部 匡恵(クラリネット) 平岡 愛子 (マリンバ、パーカッション)	令和5年 10月22日(日) 14:00~15:50	敦賀市民文化センター (敦賀市桜町7-1) 入場定員600名	主催: (公財)げんでんふれあい 福井財団 入場料:無料(※)
		令和5年 12月2日(土) 14:00~15:50	鯖江市文化センター (鯖江市東鯖江3-17-1) 入場定員600名	

※入場料は無料ですが入場整理券が必要です。申込み方法は、財団HPをご覧ください。

